ホームだより いなだいら

特別養護老人ホーム伊奈平苑
伊奈平苑高齢者在宅サービスセンター
伊奈平苑ケアプランセンター
伊奈平苑ホームヘルパーステーション
武蔵村山市西部地域包括支援センター

住所　東京都武蔵村山市伊奈平6丁目14番の2
電話　042-560-3916
URL　http://www.inadairaen.com
mail　info@inadairaen.com
編集・発行　社会福祉法人村山福祉会　編集係

特養　柳原　フミヱ　様の作品「伊奈平苑の満開の桜」

〇ご利用者思い出話…P2～3　　〇伊奈平写真館
〇お知らせ・編集後記…P4

【経営理念】
■一人ひとりの生き方を大切にし、地域で安心して暮らせる時間と空間をつくります。
【経営方針】
■私たちは、ご利用者の人権を守ります。
■私たちは、ご利用者が安心して生活できるよう、心の通うサービスを目指します。
■私たちは、サービス向上を図り、開かれた経営を行います。
■私たちは、地域に根ざした運営に努めます。

特養、デイサービスのご利用者に、
懐かしい思い出を語っていただきました。

ご利用者思い出話

懐かしい府中の思い出

特養　武内　ひで子　様

私は東京都府中市の天神町で生まれ育ちました。天神町は府中の駅から小金井方面に少し北上したあたりで、当時は五軒長屋が沢山並び、住む人が多くて活気のある地域でした。

私の家も五軒長屋で、父は近くにある日本製鋼の会社員。洋裁の仕事をする母と、姉一人、弟と妹一人ずつの四人兄弟でした。長屋には男の子が多く、小さい頃からメンコやベイゴマなど男の子の好む遊びもよくしましたし、なわとびやおはじきなど姉妹で女の子らしい遊びをすることもありました。小学校の頃は体がとても弱く、体調が悪いことをからかわれたりもしました（いじわるをした子の名前は今でもしっかり覚えています）。中学校に上がると少し丈夫になってきて、沢山の友達ができました。

バレーボールやバスケットボールなどの球技が好きで、卓球部に入りました。卓球は高齢になっても続けていました。オリンピックなどで卓球の試合を観ると今でも試合をやりたくなります。

府中駅をはさんだ南側には大國魂神社があり、お祭りが大好きだった私は、兄弟や友達と、時には一人でもバスに乗って大國魂神社のお祭り見物に行きました。

有名なのは「くらやみ祭り」で、夜通し威勢のいい男の人達がケンカをするようにあばれたり、おみこしをかついで夜を明かします。参道を大きな太鼓やおみこし、山車にお囃子が練り歩き、怖いような浮足だつようなお祭りの雰囲気が大好きでした。

子供の頃の思い出

特養　中澤　善助　様

私は東京都江戸川区深川で生まれました。隅田川や小名木川など大小の川に囲まれ、両国国技館や清澄庭園にもほど近い下町です。

私は二つ上の兄との二人兄弟で、小さい頃からよく兄と一緒に川釣りに出かけました。ハゼやコイが釣れて、飽きずに水面と釣り糸を眺めて過ごしました。

両親は和菓子職人で、私が中学に上がる頃に独立して、門前仲町に「玉木屋」という和菓子店を構えました。

私と兄もよく店に行き、せいろで蒸されるまんじゅうや季節ごとに変わる生菓子の横で道具を洗ったり、忙しく働く両親の力になりたいと手伝いをしました。

中学高校時代はサッカー部に所属し、高校二年ではキャプテンを務めました。近くの学校と試合をすることも多くありましたが、戦績は「まあまあ」でした。

キャプテンとクラスの級長を兼任した時もあり、学生生活は忙しくも楽しい中であっという間に過ぎました。

結局兄も私も両親の和菓子店を継ぐことはなく、私はタイプライターを作る会社に勤め、販売の仕事をしました。

今は伊奈平苑でのんびりと過ごしているので、昔についてあまり多くのことを思い出すことはありませんが、たまにテレビでサッカーの試合を観ると懐かしく、いつの間にか応援に熱が入ってしまいます。

うつり変わる武蔵村山と私の思い出

デイサービス　池谷　タカ　様

私は大正十五年、武蔵村山市で生まれました。当時の名称は北多摩郡村山村の中藤神明ケ谷戸。市の北東側で東大和市に隣接するあたりです。

私は六人兄弟の四番目で三女。一番上に兄、そこから四人女で一番下が弟です。

私が小さい頃は生家のある神明ヶ谷戸から現在住む大南までずっと畑と野原、雑木林で何もありませんでした。現在は都営村山団地があるあたりも春になると土埃が舞い上がり、空まで土の色になるようでした。

家業は村山大島紬の機織りでしたが、第二次世界大戦開戦後の昭和十六年に機織りどころではなくなり廃業。兄が戦地に赴いている間に母が亡くなり、一番上の姉が兄弟の母親代わりとなり、父は立川の陸軍航空廠へ、私は大南にあった東京陸軍少年飛行兵学校に勤めることになり、砂利の道を歩いて仕事に通いました。

空襲があると蛸壺壕と呼ばれる一人用の避難壕に急いで飛び込むのですが、一緒に働いていた女の子の一人が上手く飛び込めずに爆撃を受けて亡くなったことがとてもショックで辛かったです。

戦争が終わり兄が帰還した日、兄は初めて母が亡くなったことを知りました。戦争のさ中で母の死を報せることが出来ないのは仕方がなかったのですが、兄は高齢になり亡くなるまで会うたびにそのことが無念だったと話していました。

終戦後しばらくして飛行兵学校がなくなり、私も放免になりました。戦後間もない頃は大変苦労をしました。お金も仕事もなく、家の屋根は茅葺きではなく「麦葺き」で父が生まれた時からそのままだったため、雨漏りが酷かったのを覚えています。

やがて飛行兵学校があった大南の広大な土地は払い下げられ、その一隅を父が購入し畑にして野菜を育てました。

私は戦時中に四カ月間吉祥寺の洋裁学校に通って洋裁の基礎だけを学び、型紙が作れるようになったので、祖父の弟が経営する仕立て屋で雇ってもらえました。当時足踏みミシンは需要に供給が追い付かず、洋裁学校でも触ることができず、職に就いてから初めて使い方を知りました。

そんな中、父が亡くなりました。当時お酒は高級品で、メチルアルコールを混ぜた密造酒が出回り、それを飲んだことが原因です。父は母と死別したあと再婚の話が持ち上がりましたが、結局後妻をとることはありませんでした。親戚一同が集まって父の再婚の話し合いをし、意見を求められた私は「母よりも良い人ならば」と何の悪気もなく言ってしまったのですが、その一言が影響してしまったようでもありました。

私は二十六歳の時に結婚。生家の近くで戦時中に取り壊された家の建具を再利用して家を建て、夫と生活を始めました。

娘を四人授かり、嫁に出した時一番上の娘は和装でしたが、次女から四女の三人は私が仕立てたウェディングドレスを着てくれました。

武蔵村山は昭和から平成、令和とうつり変わり、飛行兵学校の跡地には都営村山団地や学校、住宅地が広がっています。あの時購入した土地は娘達の家と、一部は武蔵村山市に寄贈して、飛行兵学校や特攻隊で命を落とした少年兵達の史実を永く伝えていくため、歴史民俗資料館の分館を建ててもらいました。

戦争はとても大きな力ですべてを壊していきます。こんな現代でも爆撃で子供を失った母親が泣いているのをテレビで観ると胸が痛みます。私はその時自分ができることを精一杯するだけですが、それはどんな世の中でも大事なことだと思っています。

イラスト「ハナミズキ」
柳原　フミヱ　様

伊奈平写真館

2月22日特養ご利用者、
芳賀　喜美子様の百歳のお祝いをしました。フロアの職員も一緒に記念写真。おめでとうございます！

ご利用者思い出話でお話を聞かせて頂いた
武内　ひで子様です。ご家族に元気な顔を見せたいと、お写真も撮らせて下さいました。また沢山お話聞かせて下さい！

東館ロビーに大きなひな壇を飾りました。親王飾りからお輿入れ道具まで豪華な七段飾りです。

今年もフロアごとに行われた節分祭の様子です。毎年威勢よく登場しても土下座で終わる鬼たちなのでした。

ご報告
車いすをご寄贈いただきました

東京善意銀行様より、車いすをご寄贈いただきました。主にショートステイのご利用者の安全な移動に活用させていただきます。

知りたい！お知らせ

編集後記

四月になって暖かくなると気持ちも装いも軽くなります。空から降るのも雪から桜吹雪に変わるこの季節。今年の春はどうか皆さんの笑顔も満開に咲きますように。

（編集係　S）